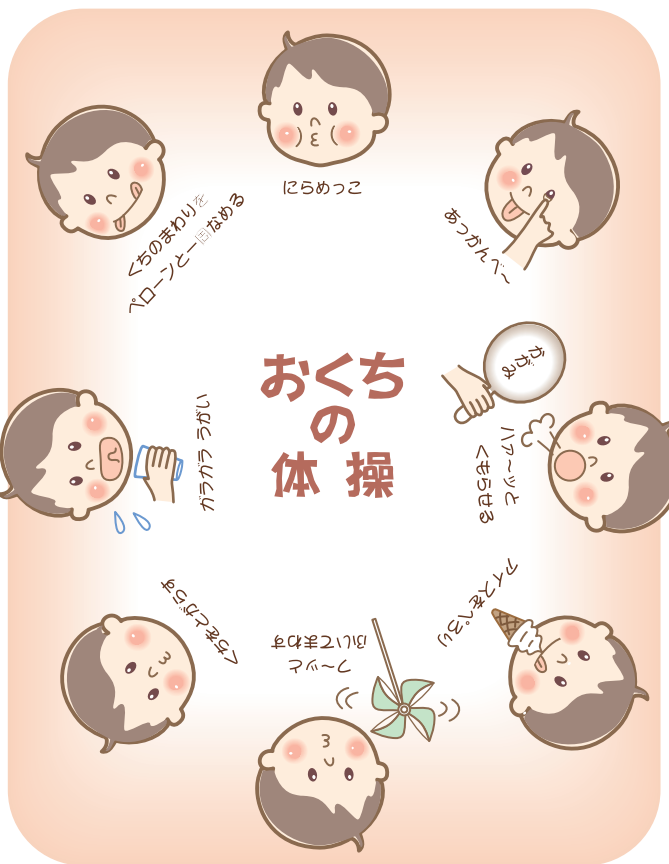


● 発音の発達 ●

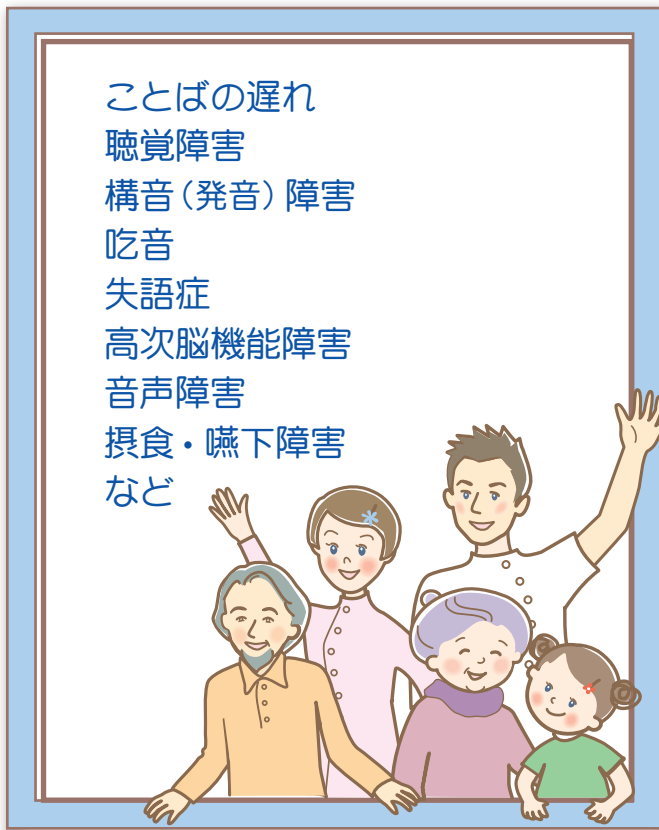
発音の獲得時期には個人差があり、7~8歳くらいまでかかって正しい発音ができるようになる子どももいます。時期に差があっても自然に獲得する場合があります。

発音の発達は、母音（アイウエオ）様の音から始まります。まずパ・バ・マ行などの唇を使う音ができるようになり、そのうちにカ行、タ行、ラ行、サ行などの難しい音が少しずつできるようになります。

発達の順序や時期には個人差もあるので、4歳くらいまでは慌てずに様子を見ても良いでしょう。



言語聴覚士がお手伝いします



『話す・聞く・食べる』ことに問題がある方やご家族の支援をいたします

福岡県言語聴覚士会

事務局

TEL.080- 1776-5108

<http://homepage3.nifty.com/fukuoka-st/>

発音のこと

子ども編



● 気になることチェックリスト ●

- 決まった音が言えなかったり、赤ちゃんことばが残っているように感じる
例：『さかな』が『ちゃかな』になる
『とけい』が『とてい』になる
- 友だちに発音のことで からかわれたことがあり、本人も気にしている
- うまく噛めないなど、食べたり飲んだりすることがあまり上手ではない

● 発音が気になる ●

口の動きや舌の形に明らかな異常がないのにも関わらず、うまく発音できない音がある状態のことを『構音障害』といいます。

いろいろな発音を学習していく過程で、誤った発音のしかたを覚えてしまったり、まだ獲得していない場合に起こります。

原因として考えられること

- 舌や顎、頬、唇など（発音器官）の細かい運動の不器用さがある場合
- 中耳炎などで軽い難聴があって聞こえが悪いため正しい発音の学習ができない場合
- 聞こえは良くても音を聞き分ける力や記憶する力が弱い場合

● 家庭でできること ●

1. 聞く力を育てていきましょう

間違って発音したことばを『〇〇〇(っていつてるの)ね』と自然にことばを返しなが、正しい発音のモデルを聞かせてあげましょう。

2. 口をよく見て、よく動かして

鏡を見ながら親子で百面相。果物の種をプツと飛ばしてみたり、シャボン玉遊びをしたり、口を動かす遊びをしましょう。自分の口元を自分で意識しながら遊ぶ経験は口や口の中の器官を上手に動かす力を育てます。

3. おしゃべりすることを楽しみましょう。発音はおしゃべりするうちに、少しずつ変わってきます。

楽しいおしゃべりが一番の練習になります。

ゆったりとした気持ちで、おしゃべりが大好きな子どもに育てていきましょう。

● 発音の訓練 ●



言えない音の種類にもよりますが、4歳を過ぎても正しい発音ができず、友達にからかわれたり、本人が気にするようになったりと、日常生活に影響が出てきた場合には訓練を考えます。その場合、発音の誤り方を調べるだけでなく、聞こえや発音器官の検査もする必要があります。聞こえに異常が見つかった場合は聞こえの治療を優先します。それから、発音器官の形態に異常（*1）がなければ、訓練を開始します。

発音の訓練は基本的には個別で行います。1回の訓練時間は20分～40分程度です。音の聞き分けや正しい音の出し方などを練習します。訓練は専門的な知識が必要なので、家庭で自己流にすると誤った発音の仕方を身につけてしまったり、おしゃべりをする事自体を嫌がるようになってしまう可能性があります。訓練を考える場合にはまず言語聴覚士に相談することをお勧めします。

*1

生まれつきの口唇裂、口蓋裂や舌の欠損、形態異常などによって発音できない音があることもあります。口蓋裂は口の奥の方にみられることもあり見た目だけではわからないこともあります。

このような場合は、手術や矯正で発音しやすいように形を整えたり補綴物と呼ばれる発音の為の補助器具を装着します。

Q. うまく発音できないときは どうするの？



A. 正しい発音をきかせましょう